

## ◆国語科◆

### 全校で取り組んできたこと（H29年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・「話すこと・聞くこと」においては話す内容を文字化することによって、内容の吟味をさせます。
- ・問題文を最後まで見落とさずに読み、線を引いたり○で囲んだりすることで、答える内容を的確に捉える習慣をつけさせます。
- ・週末課題として新聞のコラム「有明抄」の視写に取り組ませ、感想や要約などの「書く活動」などによって、「思考力」「読解力」「表現力」の向上につなげます。
- ・宿題と毎時間の漢字テスト・小テストを連動させ、言語事項の定着を図ります。

### 4月データを分析して気付いた成果と課題

#### 《第7学年について》

| 成 果  | 課 題  |
|--|--|
| <p>○教科全体の正答率は、県の正答率を大きく上回っていますが、「十分達成」の数値と比較すると下回る数値でした。</p> <p>○観点別正答率では「話す・聞く」「読む」が県の正答率を大きく上回り、到達状況も「話す・聞く」が「十分達成」の域です。「書く」「知識・理解・技能」は県の正答率をやや上回っています。</p> <p>○問題形式では特に記述式の正答率が県を大きく上回っており、「活用」に関する問題の正答率も大きく上回っています。また、無答率ほどの問題においても県を下回っています。何とかして問題に答えようとする意欲が見られます。</p> <p>○全体として県平均より高い正答率であり、読み書きの能力は身につけているといえます。また問題に答えようという意欲も高いので、現在の取り組みを継続しつつ、課題である漢字の読み書きや文法に関することなど、「知識・理解・技能」の力を高める取り組みを行っていきます。</p> | <p>●ほとんどの領域、観点で県の正答率を上回っているのに対し、「漢字の読み・書き」が県の正答率を下回っています。複数の読み方のある漢字の読み、同音異義語・同訓異字や生活に密着していない漢字の書きに課題が見られます。小テストの問題を精選し、幅広い語彙を身につけさせていきたいと考えています。</p> <p>●「相手が読んで理解しやすいように、よりよい表現に書きなおす」問題では、条件に合わせて二文で書くことは、多くの生徒ができていました。しかし、正答率が低かった原因として、話し言葉として接続詞のように使用している語を、書く際も接続詞として使用しており、誤答になっていたものが多数ありました。適切な接続語の指導を徹底していく必要があります。</p> <p>●「主語を捉える」問題については、主語になりうる語句が複数ある場合に混乱が見られました。まず述語を探し、述語の主体を探させる指導を行っていく必要があります。</p> <p>●漢字の読み書きや文法に関することなど、「知識・理解・技能」に課題が見られました。知識定着のため、小テストや宿題の在り方について検討していく必要があります。</p> |

## 《第8学年について》

| 成 果   | 課 題   |
|---|---|
| <p>○教科全体の正答率は、県の正答率を大きく上回っていますが、「十分達成」の数値と比較するとやや下回る数値でした。</p> <p>○観点別正答率では「話す・聞く」「書く」「知識・理解・技能」が県の正答率を大きく上回り、到達状況も「話す・聞く」「書く」「語句に関する知識」が「十分達成」の域にあります。「読む」は県の正答率をやや上回っています。昨年度は「知識・理解・技能」が県をやや上回る程度でしたので、宿題と連動させた毎時間の漢字テストや小テストが語句知識の定着に功を奏していると考えられます。</p> <p>○問題形式では特に記述式が県を大きく上回っており、「活用」に関する問題も大きく上回っています。また、無答率はどの問題においても県を下回っています。何とかして問題に答えようとする意欲が見られました。</p> <p>○「伝えたい事柄について効果的に記述すること」「自分の考えを根拠を明確にして書くこと」「文章に表れている書き手のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを書くこと」において県の正答率を大きく上回っています。複数の条件に合わせて適切に「書くこと」ができるようになった生徒が多く見られました。「書く活動」を授業の中に必ず位置付けた取り組みを今後も継続していきたいと考えています。</p> | <p>●どの領域、観点も県の正答率を上回っているのに対し、「漢字の読み」が県の正答率とほぼ同じでした。「類い」「養蚕」という、生活に密着していない漢字の読み課題が見られました。</p> <p>●「読むこと」が県の正答率をやや上回る程度でした。県の正答率を上回っている問題が多いものの、どの問題も50数%程度の正答率であり、読解力にはまだ課題が多いと感じています。</p> <p>●文学的文章において、登場人物の心情を描写に基いて読み取る問題の正答率が県と比べても大きく下回っています。登場人物の言動や表情、会話から表面的ではない、より深い心の動きを読み取ることが中学2年生には求められます。また、文章の表現の特徴を的確に捉えたり、その効果を理解したりする力も身につけさせたいと考えています。指導事項と思考操作を明確にした「めあて」の提示によって、生徒が主体的に読み進められるようにしたり、グループタイム等で考えを交流することで自分の考えを広げたり深めたりできる授業を進めていく必要があると考えています。</p> |

## 《第9学年について》

| 成 果   | 課 題  |
|---|--|
| <p>○教科全体の正答率は、県の正答率を大きく上回り、「十分達成」の数値でも上回っています。</p> <p>○観点別正答率では「話す・聞く」「書く」「知識・理解・技能」が県の正答率を上回り、到達状況も「話す・聞く」「書く」「語句に関する知識」が「十分達成」の域にあります。昨年度より「十分達成」を維</p> | <p>●漢字の読みに関してはよくできていたものの、漢字の書きに関しては県の正答率を下回っており、無解答率も高くなっています。漢字を楷書で正確に書く指導をより多く取り入れた指導を日ごろから行う必要があると考えています。</p> <p>●設問の条件を読み取ることができずに、正確に条件</p> |

持しており、授業の中で、「話し合い」や「書く」活動を必ず取り入れた成果が表れていると思われま  
す。引き続き昨年度からの取り組みを継続していき  
たいと考えています。

○ほとんどの領域において無解答率が県平均を下回っ  
ており、問題に答えようとする意欲が高いと考えら  
れます。

を満たして書くことができていない生徒が多く見ら  
れました。また、文法の知識・理解が十分ではなく、  
条件の中に文法事項が含まれていると答えられない  
と考えられます。文法に関しては、補充的な授業に  
より基礎から復習することに加え、条件に応じて書  
く練習を増やしたいと考えています。

●活用問題の正答率が低く、文章や図表から得た情報  
をもとに考えを深めることができていないと考えら  
れます。指導事項と思考操作を明確にした「めあて」  
の提示によって、生徒が主体的に読み進められるよ  
うにしたり、グループタイム等で考えを交流するこ  
とで自分の考えを広げたり、深めたりできる授業を  
進めていく必要があります。また、文章の表現の特  
徴を的確に捉えたり、その効果を理解したりする力  
も身につけさせたいと考えています。

## ◆数学科◆

### 全校で取り組んできたこと（H29年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・自分の考えを書き表し、友だちに説明するコミュニケーション活動を随時設定し、活用する力と考えを伝える力を身につけさせます。
- ・日々の授業で、小テストを実施し、自己評価をさせながら、数式の計算技能の向上を図ります。
- ・学習に対する良い習慣を確立させるとともに、理解が十分ではない生徒には個別指導の機会を多く設定し、生徒の意欲を高めます。

### 4月データを分析して気付いた成果と課題

#### 《第7学年について》

| 成 果   | 課 題  |
|---|--|
| ○正答率は、県の正答率と同じ程度であり、「十分達成」「おおむね達成」は県正答率と同じ程度でしたが、「要努力」は県平均をやや下回っています。                               | ●減法と除法が混合した分数の計算は、県の正答率が約50と決して高い数値ではありませんが、本校は県の正答率をさらに下回っています。   |
| ○「数と計算」では、県の正答率とほぼ同程度であり、無解答率は県を下回っています。特に、分数・小数の乗除については、「十分達成」の域にあります。                             | ●「1m3cm」を、小数を使って「m」で答える問題の正答率が県の正答率を大きく下回っています。  |
| ○「量と測定」では、県の正答率をやや下回るものの、「台形の面積を求める問題」では、県の正答率を上回り、無解答は見られませんでした。                                   | ●分度器を用いて「180°」より大きい角の大きさを求める問題の正答率が県正答率を大きく下回っています。  |
| ○「図形」では、県の正答率をやや下回りましたが、「点対称な図形における対応する辺」を答える問題では、全員正答でした。また、「線対称な図形における対応する点」を選ぶ問題でも「十分達成」の域にあります。 | ●長方形と正方形の2等分する考えを基に示された式が正しい理由を説明する問題では、県正答率を大きく下回っています。解き方や理由が分からないということではなく、正答の条件を満たしきれないものが多数あり、正答率を下げていると考えられます。 |
| ○「数量関係」では、県正答率をやや上回っています。特に、柱状グラフを用いることが適しているものを選ぶ問題の正答率が県の正答率を大きく上回り、「十分達成」の域にあります。                | ●円周の長さを求める式を選択する問題については、県の正答率も低くなっていますが、本校ではさらに県の正答率を下回っています。  |
|   | ●示された情報を解決し、考えの根拠を言葉や式を用いて説明する問題の正答率が県の正答率をやや下回っています。無解答の生徒は見られませんでした。正答の条件を満たしきれないものが多数見られ、それが正答率を下げていると考えられます。     |

#### 《第8学年について》

| 成 果  | 課 題  |
|--|--|
| <p>○正答率は、県平均をやや上回っています。「活用」に関する問題の正答率は、県の正答率と同じ程度でした。</p> <p>○「数と式」の領域では、「十分達成」の正答率の域にあり、特に、同領域の技能を評価する問題については、正答率が高く、無回答率は低くなっています。</p> <p>○「関数」の領域は、全問、県の正答率を大きく上回っており、活用に関する問題でも、唯一この領域では、「おおむね達成」の域にありました。</p> <p>○昨年度12月の調査では、県の正答率と同じ程度でしたが、宿題の出し方やコミュニケーション活動を取り入れた授業を多く取り入れたことにより、全体的な正答率の向上が見られるようになりました。</p> | <p>●「数と式」の領域で、要努力とされたものは、具体的事象から数量関係をよみとる問題、また、事象から成り立つ事柄を説明する問題でした。無回答率も30%を超えるものがありました。</p> <p>●「図形」の領域では、円錐の体積を求める問題と図形の移動を数学的な表現で的確に説明する問題で、「おおむね達成」より、20ポイントも下回っていました。錐体の体積や表面積を求める問題を苦手とする生徒が多く見られました。図形の移動を説明することについても、数学的な表現で説明された例文があるにも関わらず、無回答が32.5%いるという結果から、図形の移動の基礎知識が定着していないことが分かり、補充学習の必要があると考えています。</p> <p>●「資料の活用」の領域では、「代表値」を用いて資料の傾向を説明する問題で、「おおむね達成」の域に達していません。</p> |

## 《第9学年について》

| 成 果   | 課 題  |
|---|--|
| <p>○正答率は、県平均と同じ程度です。「見方や考え方」の正答率は、県の正答率をやや下回るものの、「知識・理解」「技能」は県の正答率と同じ程度でした。</p> <p>○「数と式」では、数直線上に示された負の整数を読み取る問題については、全員正答でした。</p> <p>○不等式を使って、数量の大小関係を表す問題の正答率は県の正答率を大きく上回り、「十分達成」の域に達しています。</p> <p>○「単項式どうしの除法の計算」「式の値」「比例式を解く」「問題場面における考察の対象を明確に捉える」については、いずれも「十分達成」の域に達しています。</p> <p>○「図形」では、県の正答率をやや上回っています。中でも、「球が半円の回転体であること」「三角形の合同(辺や角の相等関係)」は、県正答率を大きく上</p> | <p>●「問題文に合った計算を選ぶ問題」の正答率は、県の正答率を大きく下回っており、課題や小テストで関連問題を多く解かせたいと考えています。</p> <p>●「等式の変形」の正答率は県の正答率を大きく下回っています。</p> <p>●説明をする問題の二つについては、正答率が極端に低いものが見られ、授業でより丁寧に、詳しく取り扱う必要があります。</p> <p>●「角錐の体積＝1/3×角柱の体積」であることを用いる問題の正答率は、県の正答率を大きく下回っており、知識が完全に定着していないと思われます。</p> <p>●「一次関数における傾きと切片の値とグラフの特徴の関連付けによる理解」は、県の正答率を大きく下回っています。</p> |

回っています。

- 「関数」では、「座標平面上に点の位置を示す」は県の正答率を大きく上回り、「十分達成」の域にあります。
- 「事象に即したグラフの解釈」では、県の正答率を大きく上回っています。
- 「資料の活用」では、「最頻値」「中央値」ともに県正答率を大きく上回っています。

●「連立方程式の解と2直線の交点の座標が一致すること」では、県の正答率を大きく下回っています。

●「表などを利用して確率を求める」「与えられた情報から事象の起こりやすさの傾向を捉える」では、ともに県の正答率を大きく下回っています。

●「与えられた情報を的確に処理すること」の正答率は、県平均を大きく下回っています。

## ◆理科◆

### 全校で取り組んできたこと（H29年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・ 授業導入において、演示実験などで興味・関心を高め、何のために、何を学習するのか、課題を確認し、課題解決を意識させ進めます。
  - ・ 実験結果を図や表、グラフを使い表現させる等の効果的な書く活動を取り入れます。
  - ・ 考察において、実験結果と事実から分かったことを明確に分けて書くという視点を生徒に示し、生徒の科学的な表現力を高めることに繋がります。
- ※ 意識調査における「理科の勉強は好きだ」に「当てはまる」と答えた生徒は41.0%で、県の28.2%を大きく上回っています。また、「理科の授業の内容はよく分かる」「理科の勉強は大切だ」など理科に関する質問に「当てはまる」と肯定的に答えた生徒は県より大きく上回っています。今後も実験・観察を重視した学力向上の手立てにより、理科への興味をさらに高め、苦手な生徒を少なくしたいと考えています。

### 4月データを分析して気付いた成果と課題

#### 《第9学年について》

| 成 果  | 課 題   |
|--|---|
| ○本校の正答率は、県の正答率とほぼ同じです。到達度分布では、「十分達成」「おおむね達成」「要努力」の生徒の割合は、県とほぼ同じです。                           | ●評価の観点において、「知識・理解」が県正答率よりやや下回っています。小単元毎に視覚的な表や図を使い知識の定着を図りたいと考えています。  |
| ○評価の観点において、「思考・表現」「技能」は、県の正答率とほぼ同じです。個別や少人数での実験・観察が可能になるように実験器具の工夫をし、さらに「技能」を高めていきたいと考えています。 | ●内容・領域において、「科学的領域」が県正答率より大きく下回っています。化学記号など基礎的内容から復習をする必要があります。  |
| ○内容・領域において、「物理的領域」「生物的領域」「地学的領域」は、県の正答率とほぼ同じです。  | ●問題形式において、「記述式」は、県正答率より大きく下回っています。問題の読み取りにおいて、比べる基準となる項目や条件設定などの確認が不十分でした。問題の読み取り方の練習を重ねていきたいと考えています。   |
| ○問題形式において、「短答式」は、県の正答率よりやや上回っています。特に動物の体のつくりの特徴に関する知識の問題の正答率は、県正答率より大きく上回っています。              | ●課題解決のためにどのような実験をするべきか、実験を実施する際に「変えない条件」を求められる問題の正答率が大きく下回っています。全体的に実験の結果から考察する問題の正答率は、県の正答率をやや上回っていますが、実験内容を予想する問題の正答率が、やや下回っている傾向にあります。今後は、実験の予想段階を重視した授業に取り組んでいきたいと考えています。 |
| ○無解答率がどの問題においても県より下回っています。最後まで考える意欲は高いと考えられます。しかし、小数や分数の計算ミスなどで正答にならないケースが目立ちました。            |   |
| ○「活用」に関する問題の正答率は、県の正答率とほぼ同じです。理科に興味を持ち、理科学的な知識を生活の中で活用して考える力がついてきています。                       |   |

## ◆意識◆

### 全校で取り組んできたこと（H29年度12月調査の分析・検討を受けて）

- ・家庭教育指針に基づいた学年に応じた家庭学習時間を確保します。
- ・授業と連動した学習課題を効果的に出します。
- ・生徒の読書量を増やす取組を強化します。
- ・インターネットやスマートフォンの使用について約束事を決め、家庭学習時間を確保させます。

### 4月データを分析して気付いた成果と課題

#### 《第7学年について》

| 成 果  | 課 題  |
|--|--|
| <p>○将来の夢や目標をもち、学校生活を楽しんでいる子の割合が増加しています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q：学校に行くのは楽しいと思う。<br/>「そう思う」の割合が+10.6%（58.3→68.9）。</p> <p>Q：将来の夢や目標をもっている。<br/>「当てはまる」の割合が+9.9%（47.9→57.8）。</p> <p>○復習に時間をかける子どもが増加してきています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q：学校の授業の復習をしている。<br/>「している」、「どちらかといえば、している」の割合が+15.4%（64.6→80）。</p> <p>○授業の課題に対し、主体的に考え、能動的に取り組む子が増加しています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q：授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいると思う。<br/>「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」の割合が+9.6%（77.1→86.7）</p> <p>○読書が好きな子どもが増加してきています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q：読書は好きだ。<br/>「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」の割合が+15.8%（68.7→84.5）。</p> | <p>●自分の考えを発表・説明したり、文章したりすることを難しいと思う子が増加しています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q：友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う。<br/>「どちらかといえば、そう思わない」の割合が+12.8%（25→37.8）。</p> <p>Q：学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。<br/>「どちらかといえば、そう思わない」、「思わない」の割合が-12%（54.2→42.2）。</p> <p>●普段（月～金）の学校外での学習時間が減少しています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q：「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」<br/>2時間以上の割合が-19.5%（41.7→22.2）。<br/>1時間未満の割合が+12.3%（18.8→31.1）。</p> <p>●ご家族との間で、スマートフォン等の使用に関してルールづくりがなされていない子が1割ほどいます。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q：携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。<br/>「約束はない」の割合が+0.7%（10.4→11.1）。</p> |



|  |   |
|--|---|
| <p>○家族との約束を守って、スマートフォン等を使っている子が増えています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。</p> <p>「きちんと守っている」の割合が+19.3% (22.9→42.2)。</p> <p>○テレビ視聴やゲームの時間について、家の人とのルールづくりが二極化しています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか。</p> <p>「決めている」の割合が+13.3% (20.8→34.1)。</p> <p>○ほとんどの子が落ち着いて授業に臨んでいます。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: 学校では落ち着いて勉強することができている。「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」の割合が97.8%。</p> | <p>●テレビ視聴やゲームの時間について、家の人とのルールづくりが二極化しています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか。</p> <p>「全く決めていない」の割合が+10.4% (14.6→25.0)。</p> <p>●苦手な教科やテストで分からなかった問題に前向きに取り組めていない子がいます。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: 苦手な教科の勉強をしている。</p> <p>「あまりしていない」、「していない」の割合が37.7%。</p> <p>Q: テストで分からなかった問題や間違った問題についてやり直しをしている。</p> <p>「あまりしていない」、「まったくしていない」の割合が26.6%。</p> |
|--|---|

## 《第8学年について》

| 成 果  | 課 題   |
|--|---|
| <p>○友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思える生徒の割合が高い傾向にあります。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思える。</p> <p>「そう思う」38.1%(本校)⇔13.7%(県)</p>                          | <p>●学校で、落ち着いて勉強することができている生徒が減少してきています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: 学校では落ち着いて勉強することができていると思う。</p> <p>「そう思う」81.4%(H29)→54.8%(H30)</p>                                    |
| <p>○家庭での学習時間が少ない生徒の割合が低く、数も減少してきています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: 学校の授業時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。</p> <p>「1時間より少ない」</p> <p>21%(H29)→14.3%(H30)</p> <p>37.4%(県)</p> | <p>●将来の夢や目標をもっている生徒が減少してきています。</p> <p>&lt;データ&gt;</p> <p>Q: 将来の夢や目標をもっている。</p> <p>「そう思う」60.5%(H29)→35.7%(H30)</p> <p>「どちらかといえばあてはまらない」</p> <p>11.6%(H29)→23.8%(H30)</p> |
| <p>○普段、1日当たり、長時間ゲームをする生徒の割合が低く、数も減少してきています。</p>  | <p>●自分で計画を立てて勉強していない生徒が増加してきています。</p>   |

|  |   |
|--|---|
| <p>&lt;データ&gt;<br/>Q: 普段、1日あたり、どれくらいの時間、テレビゲームをしますか。<br/>「2時間以上」<br/>21% (H29) → 14.3% (H30)<br/>25.7% (県)</p> <p>○ 普段、1日あたり、読書を全くしない生徒の割合が低い傾向にあります。<br/>&lt;データ&gt;<br/>Q: 学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。<br/>「全くしない」<br/>9.3% (H29) → 9.5% (H30)<br/>30.2% (県)</p> | <p>&lt;データ&gt;<br/>Q: 自分で計画を立てて勉強している。<br/>「あまりしていない・していない」<br/>14% (H29) → 30.9% (H30)</p> <p>● 学校の授業の復習をしている生徒が減少してきています。<br/>&lt;データ&gt;<br/>Q: 学校の授業の復習をしている。<br/>「している・どちらかといえばしている」<br/>90.7% (H29) → 71.4% (H30)</p> <p>● 普段、1日あたり、携帯電話やスマートフォン等で通話やインターネットをしている時間が増加傾向にあります。<br/>&lt;データ&gt;<br/>Q: 普段、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォン等で通話やメール、インターネットをしますか。<br/>「2時間以上」<br/>11.7% (H29) → 23.8% (H30)</p> |
|--|---|

## 《第9学年について》

| 成 果  | 課 題  |
|--|--|
| <p>○ 「学校の宿題をしている」生徒の割合が、県平均を大きく上回ります。前年度の同時期と比較しても、宿題や提出物を確実に提出することができるようになっており、意識の高まりが感じられます。<br/>&lt;データ&gt;<br/>Q: 学校の宿題をしている。<br/>「そう思う」82.1% (本校) ⇔ 74.3% (県)</p> <p>○ 「朝食を毎日食べている」、「毎日同じくらいの時間に寝ている」、「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた生徒の割合が、県平均を大きく上回っています。家庭の協力もあり、基本的な生活習慣が身につけていると考えられます。<br/>&lt;データ&gt;<br/>Q: 朝食を食べている。<br/>「している」84.8% (本校) ⇔ 81.5% (県)<br/>Q: 毎日、同じぐらい時刻に寝ている。</p> | <p>● 「自分で計画を立てて勉強している」生徒の割合が、県平均よりも大きく下回ります。家庭学習の様子を見ても、宿題をこなすことに留まっており、自分で計画を立てて、苦手な部分の学習まで踏み込んで行っている生徒は少ない傾向にあります。計画を立て主体的に学習していく力は、高校受験を突破するためにも不可欠で、計画の立て方や学習の方法を継続的に指導する必要があります。また、テストのふり返りで苦手部分を明確にし、復習していくという学習のサイクルの習得を図ることで、受験体制を構築していきたいと考えています。<br/>&lt;データ&gt;<br/>Q: 自分で計画を立てて勉強をしている。<br/>「している」7.7% (本校) ⇔ 15.5% (県)</p> <p>● 学校の授業以外に読書をする1日当たりの割合が「10分より少ない」「全くしない」と答えた生徒の割合が</p> |

「している」48.7%(本校)⇔38.8%(県)  
Q:毎日、同じぐらいの時刻に起きている。  
「している」74.4%(本校)⇔60.1%(県)

○「今住んでいる地域の行事に参加している」、「地域や社会で起こっている出来事に関心がある」と答えた生徒の割合が県平均を大きく上回ります。地域全体の協力体制があります。生徒たちの所属意識や見守られている安心感が高いようです。

<データ>

Q:今住んでいる地域の行事に参加している。  
「当てはまる」30.8%(本校)⇔22.8%(県)

Q:地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。

「当てはまる」33.2%(本校)⇔19.0%(県)

○新聞を読んでいる生徒、テレビやインターネットのニュースを見る生徒の割合が県平均を上回ります。社会的な事象に対する興味関心が高いようです。

<データ>

Q:新聞を読んでいますか。  
「ほぼ毎日読んでいる」12.8%(本校)⇔5.0%(県)

Q:テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

「よく見る」33.2%(本校)⇔19.0%(県)

県平均を上回ります。さまざまな本や読み物に触れさせ、読書の幅を広げる、読むことに対するハードルを下げる手立てをとりながら、読む習慣、問題を正確に読み取る力につなげていきたいと考えています。

<データ>

Q:学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか。

「10分より少ない」23.1%(本校)⇔12.3%(県)

「全くしない」33.3%(本校)⇔30.3%(県)

●放課後の過ごし方で「家でテレビやビデオ、DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」割合が県平均をやや上回ります。余暇時間の過ごし方に課題が見られます。

<データ>

Q:放課後に何をして過ごすことが多いですか。

「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」

25.2%(本校)⇔12.3%(県)